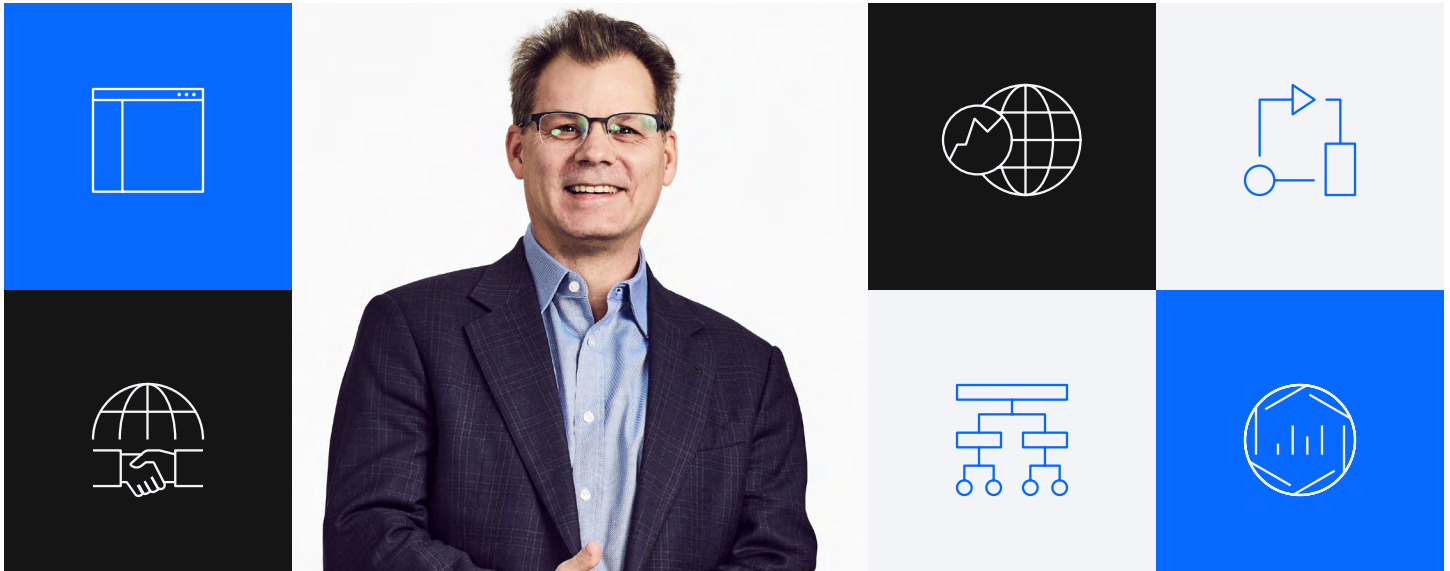


基幹業務アプリケーション

洞察から素早く実行に移し運用することにより 自社の基幹アプリケーションを変革

ビジネス変革を実現するには、人工知能(AI)や自動化などのテクノロジーでワークフローを活性化することで企業アプリケーションを最新化し、ハイブリッドクラウド上で運用することが、不可欠となっています。



このQ&Aは、ビジネス変革のトレンドを探る「視点の変化を目指す」シリーズの一部です。詳細は、<https://www.ibm.com/jp-ja/smarter-business>からご覧いただけます。

キース・コストロ氏は、IBMのグローバルSAPパートナーシップのゼネラル・マネジャーです。全てのIBMブランドにおけるSAPとの戦略的長期ビジネス・パートナーシップをリードしています。IBMに勤めて3年になります。

Q: 現在、ビジネス変革という課題において、基幹業務アプリケーションはどのような位置づけにありますか？

A: 人事、財務、在庫管理、製造などあらゆる分野で基幹アプリケーションを最新化し、連携させることは、ビジネス変革にとって不可欠です。これが実現して初めて、最先端のデータ分析機能を活用し、企業全体を全方位的に見渡すことができます。

新型コロナウイルス感染症の危機が始まった3月、多くの企業は守りの態勢に入り、変革プログラムのほとんどまたはすべてがストップしました。企業がすべてのリソースをいくつかの特定業務に集中したいと考えるようになったり、商品需要が半減して、短期的な売上高を懸念するようになったりしたためです。

しかし、変革を「ビジネスの中核戦略」と位置付け、新型コロナウイルスのパンデミック(世界的大流行)の最中も変革戦略を続けた企業もありました。現在、最も有利な立場にあるのはこれらの企業の多くです。

Q: アナリティクス機能について言及されましたが、足元の環境における変化の激しさを踏まえ、企業は組織内のデータフローのスピードを向上させる必要がありますか？

A: データにとって最大の課題の1つはアクセスです。データが信頼できるものかをまず確認します。これは大きな問題ですが、そのうえで、「適切なタイミングで適切な相手にこのデータを安全に渡せる方法は何か」という問題があります。

データを基幹アプリケーションに統合し、ユーザーがアクセスできるようにすると、ユーザーは情報に基づきリアルタイムに迅速な意思決定を下せるようになります。いつでも、システムのどこからでも情報にアクセスして製品ライン、販売代理店、サプライチェーン、流通チャネルなど横断的にデータを比較し、情報に基づいた決定を下すことができるのです。最終的にはアルゴリズムやAIが最善の判断をいくつか提案し、人間がそれを基に、例えば「テクノロジーが提案した3つの選択肢の中で、自分の経験に基づき、1番目の提案が正しい選択だ」と確信できるのです。このレベルにデータ統合とアクセスができれば、見逃したかもしれない機会や問題の警告も受けられます。

Q: IBMの言葉を使うなら、「洞察から素早く実行に移して」運用する、ということですか？

A: その通りです。例えば、エナジードリンクを販売している会社では、アナリティクス機能によって多くの情報源から、天候を含めたリアルタイムの情報を常に取り入れています。突然、アナリティクス機能が「北東部は猛暑に襲われる」という情報を認識するとします。この知識に基づいて、競合他社が対応する前に、スポーツドリンクの配送トラックを北東部に迅速に手配することが可能となります。

Q: ビジネス変革の全体的な目標は何だと考えますか？

A: 私たちは、お客さま各社を「コグニティブ・エンタープライズ（先進デジタル企業）」への進化の旅へと導こうとしています。これはつまり、エクスポネンシャル・テクノロジー（指数関数的に進化するテクノロジー）とインテリジェント・ワークフローを利用して、ビジネスにおいて新たなレベルの知見を得られるよう、支援することです。つまり弊社では、お客さま各社が力を最大限発揮できるようご支援し、各社がまったく新しい方法で行動を起こせるようにしたいのです。その重要なコンポーネントの1つはSAP機能です。ただしより基本的な部分では、エコシステム全体をつなぐ総合的なアプローチと実証された手法を適用する必要があります。これにより、非効率性を大幅に排除し、企業全体で今まで以上に情報に基づいた判断を迅速に下すことができます。

Q: 企業アプリケーションをハイブリッドのマルチクラウド環境に移行することがなぜビジネス変革にとって重要なのですか？

A: ハイブリッドクラウドとは、パブリックとプライベート双方のクラウドを使うものですが、今ではこれが基幹業務アプリケーション運用の標準となっています。ハイブリッドクラウドがビジネス変革の鍵を握る部分となる理由として、さまざまな利点の中でも特にデータフローと意思決定の高速化を実現できる点が挙げられます。企業は、単一のプラットフォームや複数テクノロジーの活用に限定されることなく運用できるマルチクラウド戦略の柔軟性を求めています。最も効率的な環境にワークロードを移行できる機能が必要とされているのです。将来的には、企業は効率性を最適化するため、複数のクラウドでさまざまなワークロードを実行するようになるでしょう。

もちろん、特にセキュリティとデータ・レジデンシー（データの保管場所）が極めて重要となる企業など、多くの企業は依然としてプライベート・クラウドの使用を希望しています。また、例えば欧州連合（EU）など、統治機関によってデータを特定の場所に保管するよう義務付けられる場合もあります。これら大企業にとってもう1つの課題はサーバーの容量です。48テラバイト規模のインスタンスを実行できると認証されたクラウド・プロバイダーが必要な場合もありますが、そのような機能を提供できるプロバイダーは多くありません。

“ データを基幹アプリケーションに統合し、ユーザーがアクセスできるようにすると、ユーザーは情報に基づきリアルタイムに迅速な意思決定を下せるようになります。

インテリジェント・インダストリー・クラウドはこれらの企業に新たな選択肢を提供します。これらのプライベート・クラウドには完全なエンドツーエンドのインテリジェント・ワークフローが備わっており、今ではグローバル企業が頻繁に必要とする大規模なデータ・インスタンスを処理できます。IBMでは、各クラウド環境を構築するバックグラウンドとして、まず業界コンソーシアムに対し、第1にデプロイする業務プロセスはどれか、どのプロセスが最も影響が大きいのか、といった質問をします。次にSAPと連携して、それらの各プロセスに対してインテリジェント・ワークフローを作成し、AIや自動化などのエクスポネンシャル・テクノロジーを適用します。

このソリューションは工業部品の製造業に焦点を当てたものですが、次は電気通信業も対象になるでしょう。そしてもちろん、インテリジェント・インダストリー・クラウドはRed HatのOpenShiftとEnterprise Linuxを使用しており、高いポータビリティ（移植性）を持ちます。そのため企業は、選択したクラウド上で自社の基幹アプリケーションをセキュアに実行できます。